

■ 平成24年度 会計および監査報告

平成24年度 収支計算書

(単位:円)

科目	2012年度決算	備考
I. 経常収入の部		
1. 会費収入	2,550,000	
2. 寄付金収入	3,690,885	
3. 事業収入	0	
4. 助成金収入	0	
5. 雑収入	107,360	受取利息等
6. 前年度繰越金	1,633,036	
当期収入合計	7,981,281	
II. 経常支出の部		
1. 事業費		
外注費	61,846	コサマック病院備品設置等
広告宣伝費	50,782	グローバルフェスタ パネル等
会議費	36,241	カ国要人との打合せ 等
旅費交通費	1,037,414	医療者カンボジア渡航、国内講演会
荷造運賃費	1,409,766	医療機器輸送
通信費	46,478	現地インターネット、電話
消耗品費	828,019	現地医療物品、医薬品 等
事務用品費	187,639	現地事務用品 等
修繕費	1,928,493	コサマック病院手術室、ICU 改修
新聞図書費	3,500	各種資料
諸会費	26,400	グローバルフェスタ出展料 等
支払手数料	28,000	海外送金 等
賃借料	60,084	国内・現地講演会場 等
寄付金	67,500	小学校への絵本
事業支出合計	5,772,162	
2. 運営管理費		
会議費	3,210	総会経費
旅費交通費	23,550	国内出張費用
通信費	45,190	会報・資料郵送代、電話代
消耗品費	39,563	用紙、封筒、はがき代
事務用品費	6,593	文房具代
支払手数料	34,405	振込手数料 等
賃借料	123,075	定期総会 ホームページ管理等
租税公課	500	収入印紙
管理費合計	276,086	
3. 運営管理費 雑支出		
雑損失	44,808	為替差損等
雑支出合計	44,808	
当期支出合計	6,093,056	
当期収支差額	1,888,225	

平成24年度 貸借対照表

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1、流動資産	1,197,232	1、流動負債	81,693
①現金	132,182	①未払金	80,693
②預金	658,368	②前受金	0
③仮払金	406,682	③短期借入金	1,000
④立替金		④預り金	
⑤前払金		2、固定負債	0
		①長期借入金	
2、固定資産	772,686		
①建物		正味財産の部	
②建物附属施設		正味財産	1,888,225
③機械及び装置	772,686	①前期繰越正味財産	1,633,036
④車両運搬具		②当期正味財産増加額	255,189
⑤工具器具備品			
⑥土地			
⑦その他資産			
資産合計	1,969,918	負債・正味財産 合計	1,969,918

24年 度 会 計 財 産 目 録

2 5 年 3 月 3 1 日 現 在

特 定 非 営 利 活 動 法 人 日 本 医 療 開 発 機 構

(単 位 : 円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金予金			
現金	132,182		
普通預金 三菱東京UFJ銀行八王子支店	510,322		
普通預金 多摩信用金庫高倉支店	148,046		
仮払金	406,682		
プノンペン現地事務所	406,682		
流 動 資 産 合 計		1,197,232	
2 固定資産			
土地			
建物			
機械および装置	772,686		
車両運搬具			
固 定 資 産 合 計		772,686	
資 産 合 計			1,969,918
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金 北原理事長	1,000		
未払い金	80,693		
預り金			
前受金 翌年分会費	0		
流 動 負 債 合 計		81,693	
2 固定負債			
長期借入金			
退職給与引当金			
固 定 負 債 合 計		0	
負 債 合 計			81,693
正 味 財 産			1,888,225

監 査 報 告 書

平成25年4月26日

特定非営利活動法人日本医療開発機構
理 事 長 北原 茂実 殿

監 事 和 田 満

私は、特定非営利活動法人日本医療開発機構の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの事業年度に関して、監査を実施しました。

① 監査手続きについては、預金通帳・現金出納並びに証憑等を閲覧し、その結果収支計算書、貸借対照表、財産目録について、正確かつ適正であることを確認しましたのでここにご報告申し上げます。

② 事業についてはカンボジア国立コサマック病院に設立した集中治療室の開設が開始されることとなり、またスタディツアーの実施等当法人が目指している医療を通じた国際貢献活動が具体的に開始されることとなり、その第一歩を踏み出した年度となったことと評価いたします。

ただし財政面においては引き続き厳しい状況があるので、引き続き会員拡大と組織運営の充実が必要と思われれます。